

あり、両師範学校あり、中学校は市内二ヶ所、女学校は三ヶ所、幼稚園数も五ヶ所に及び各園とも皆保育会など中心に盛んに発展していた。

保育の実際として特に記する事は庭園広く師範生用花壇には四季いろいろの開花結実等を観察して喜んだ。

明治四十一年二月から昭和七年四月まで大阪市立精華幼稚園に奉職、当時は公立幼稚園のみるとも東西南北の区に各七園位あった其の後郡部各市に合併され公立数も相当増加したと思ふ。戦時中休園せし園も一昨年の如く幼児数非常に多く一時入園難を叫びたる為の再び開園の必要にせまられ現在にては多大の數に及ぶと思ふ。

保母研究機関として、各区、市、三市聯合保育会などあつて修養に研究発表に努力した。今より十余年前からは全国保育大会として一層の発展を来し各都市交互に開催する事になった。

大阪市は私立幼稚園も益々増加し幼稚園聯盟の組織、内容共に充実し数年前二十周年記

想

い

出

——お茶の水女子大学附属幼稚園同窓会
ちくま会の席上にて(昭和31.4.8)——

渋沢 秀雄

五十八年前には、秀雄ちゃんという呼称にふさわしい少年で……、只今は御覧のようになりなりました。切角ここに立ちましたついでに、皆さんの想い出を誘い出す一つのでだとして、私の幼稚園におりました頃の、かすかに残った記憶を申し上げます。

明治三十二年に幼稚園を卒業したのでございますが、入園いたしましたのは明治三十一年でございます。幼稚園は当時お茶の水にございまして、お世話を願った先生は清水先生という、大層にこにこしたやさしい先生で、その頃は相当の御年配だと思つておりましたが、今お目にかかれば恐らく私の娘よりもお若い方だったろうと思ひます。その清水先生が折り紙とか手工とか、遊戯を教えて下さいましたが、その時お習

いした歌に、「来てみよきみよ、我が箱庭へ……」という歌があつて、ふしは「トゥインクル、トゥインクル」に似ています。

そのほか「かごめ、かごめ……」「ひいらいた、ひいらいた」などを習いましたが、いまだによく歌われているので、その歌を聞きますと、五十八年前に飛び帰ったような気がいたします。

その頃、私の級の友達が、こんにやく玉というのを持っておりまして……今は余りありませんが、それを板のところに叩きつけると、ゴムまりのようにはずんできます。私はそれが非常にほしくなつてきました。

その時家で唐金でこしらえた亀の子の置き物を貰つておりましたので、その唐金とこんにやく玉を交換して、家に帰つて得意になつてみせたら、それは非常に不利益であるといふことで、「そんな馬鹿なことがあるか」とたしなめられたことがあります。三つ子の魂百までという言葉がございしますが、どうもいまだにこんにやく玉と唐金と交換するようなところが残つている次第です。

その頃、同じクラスの「正ちゃん」と喧嘩をいたしましたして、幼稚園のクラスが二つ

念式典を盛大に挙行した。

園児の服装

明治四十一年頃の幼児は商業中心地の大阪では男児はカスリの筒袖の着物に下丈の小さい前だけ掛け女児は友染の着物に友染の小さい前だけの児が多かった。

明治四十五年頃には女児は友染の元録袖に白の前掛を胸から掛ける様になった。

大正五年頃には進んだ家庭は運動に便利な服が多くなった現在では園の徽章を入れた上衣を一般に用うる様になった。

保育の実際

都市に生活せる幼児は人事的事項を自撃する事のみ多く随って五項目中にも特に自然観察をなす事を多くし園内庭園にも出来得る限り樹木を多くし毎月一回は園外保育をなして自然観察を存分にさせた。そして身体の健康も増進させる事に注意した。随って恩物なども室の内外を問わず使用し可成大きく筋肉を働かすべくヒル氏の積木など盛んに使用した。

イ幼児は力一ぱい運んで何事か構成する事

に分れて、あい争つたことがありました。その当時の幼稚園は、校舎の前に芝の生えている築山がございまして、その築山を歩いていくと小学校に通ずるようになっていたと思います。私はその芝生の築山のふもとに立ちましたが、築山の上にいる正ちゃんのほうには、何人が覚えていませきかえて、数が、数人の味方がいるのです。それに私のほうにはたった一人の味方しかおりません。その忠実であった味方は神田のやつちゃんという子供で、神田川の古い鰻屋の息子さんだったそうですが……敵は、大勢、味方は一人……これは私の政治性がない、若しくは引率力がなかったという結果なので、今でも組織の中に入って働くことが不得手なのは、三つ子の魂百まで……。

その時分の小学校を一緒に出まして、今でも健在の同級生があります。それは男の友達であります、女の子の友達がお君ちゃんという名前だけ覚えておりますが、どんな方か忘れてしまいました。それでも名前を覚えているところを見ると、五十八年前の私のガール・フレンドだったと思います。

五十八年前は、家は日本橋にございました、そこからお茶の水に通いましたが、電車はございませんで、鉄道馬車がございました。今川橋の角に絵草紙屋がございました、そこにかけかえられるいろんな絵草紙を見るのが楽しみでした。

こんなことを取とめなく申してまいりますと、お退屈になると思いますからやめますが、皆さんこういう会場にお集りになると、おそらく絵巻物の如く、皆さんのおつむりの中を想い出が過ぎていくと思いが、国に歴史がある如く、各個人の人生に想い出があるということは、非常に素晴らしい、尊いことだと思います。想い出も歴史もないということの、如何に寂しいことであるということは、いろんな場合にしよう中、遭遇しておりますが、どうぞこの会がありますと共に、過去になじむという意味で、それぞれの想い出をそれぞれに生かしていつて、くりかえし同じような想い出を回想するというこの会合にのぞんだ場合に、やつぱりその想い出はさらに幸福であるということにしたいと思います。

(実業家・東映取締役)